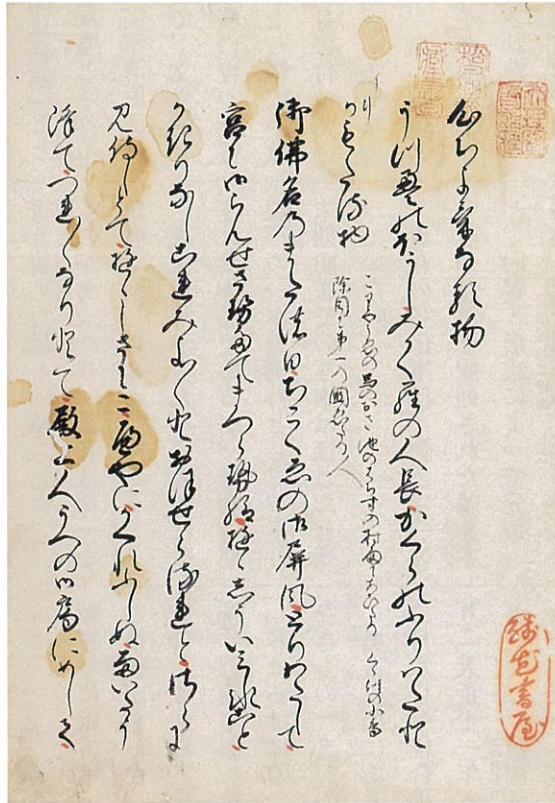


やまとの名品 天理図書館



まくらの とう しの せんじゅう ねんほん
枕 草 子 天正十一年本 (重要美術品)

清少納言著
 室町時代末期写 3冊
 縦28.1cm 横20.9cm

平安中期、一条天皇の中宮定子に仕えた女房清少納言（九六六頃〜一〇二五頃）が著した随筆『枕草子』は、『源氏物語』とともに、平安文学の双璧とされる。作者清少納言の実家清原氏は、学者・歌人の家柄で、文学的レベルの高い家庭環境に育った彼女も、和歌や漢学など幅広い教養を幼いころから身に付けていた。二十八歳頃、一条天皇の中宮定子に出仕し、高い教養と明るい性格から定子の厚い信頼を受け、深く寵愛されたという。『枕草子』には、中宮定子の華麗なサロンの様子が生き生きと描かれていたり、鋭い感受性をもって自然やそれに関する趣深

いものに短評を加えたものがあったり、自然や人事に対する感性や機微を自由に書き留めた最も随筆らしいものがあつたり、読者は様々な角度で楽しむことができる。成立当初から人々にもてはやされた作品であるが、鎌倉中期頃写の一本を例外として、室町末期頃までの写本はほとんど残っていない。現存の各伝本は、約三〇〇の章段が雑然と配列された雑纂本と、内容・形式によって分類・編集された類纂本とに分かれており、現在では前者が作品の原形ではないかと推定されている。雑纂本には三巻本・能因本、

類纂本には堺本・前田家本の各二系統があるが、本書はその内最善とされる三巻本第一類の系統。三巻本第一類の特徴として「春はあけぼの」から「あぢきなきもの」までの本文を欠く。奥書末尾にある「天正十一年二月八日令校合畢」の年記により「天正十一年本」と称されることが同時に、富岡鉄斎旧蔵書であったことから「富岡本」とも称される。戦後長らく海外にあつて、その後本館の所蔵となった。

（天理図書館 西口尚子）

申 中法陽明御本写
天正十一年二月八日令校合畢

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○2月の休館日：15日～24日・28日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）